

## 診療所実習を体験して学んだこと

あかりこどもクリニック 1年 IS

私は、7月28日にあかりこどもクリニックにて診療所実習をさせていただいた。地域で働く医療従事者を目指すものとして、地域医療やクリニックの役割について多くを学ばせていただいた。

実習の午前中は、まず椅子や診察台等のアルコール消毒から始まり、院長の北原望先生によるクリニック概要の紹介を受けた。その中で特に印象に残ったのは、忙しい合間を縫ってクリニックを訪れる患者家族への接し方や、スタッフが休暇を取得しやすい環境づくりについてのお話だ。患者家族だけでなくクリニックスタッフの生活への心配りもあり、ワークライフバランスが充実する魅力的な職場だと感じた。また、チーム医療の中で報告・連絡・相談を徹底し、互いに遠慮なく指摘ができる関係性の構築がされており、医療過誤の防止に努めている点も知った。その後は北原先生の診察を見学した。小児科を専門とするクリニックのため、生後数か月の乳幼児から小中学生までの患者がほとんどであったが、親御さんの診察や高齢患者の予防接種も行き、地域に密着したクリニックであることがうかがえた。診察中、北原先生が患児の親御さんから話を引き出す姿が印象的だった。問診が診断の多くを決定することによって、患児が泣いて聴診器の使用が難しい場合には無理に行わない判断もされていた。このように患児やその親御さんから、情報を引き出すための優れたコミュニケーション能力が求められると感じた。また診察の最後には「ほかに何か心配なことはありますか」と尋ね、細かい不安も拾い上げるような診察を行っていた。不安や悩みが尽きない子育てをする親御さんにとって、診察時にそれらをまとめて解消できるようにするために大切な一言だと感じた。加えて、地域医療におけるクリニックの役割の一つとして、患者の容体が「正常か」否かを判断することが挙げられると伺った。患者のほとんどは健康であることが多いが、時には危険な状態の患者が紛れていることがある。それを見逃さないよう注意することが重要だという。

午後は注射用保護パッドにキャラクターのイラストの描く作業を主に行った。これは注射を嫌がる子供の恐怖心を緩和するために有効な方法だと思われる。さらに様々なところに描かれたクリニックのキャラクターや天井の動く装飾など、子供の興味を引く工夫が随所に見られた。また、予防接種や舌下免疫療法の確認作業等と同行し、特に予防接種では、接種年齢や接種の間隔などをトリプルチェックする慎重な体制を学んだ。舌下免疫療法については、投薬方法やアナフィラキシーショックの懸念などについて、看護師の方が丁寧に説明している姿を見学した。

最後になりましたが、この実習を通して多くの貴重な学びを得ることができました。お忙しい中ご指導いただいたあかりこどもクリニックの皆様へ感謝申し上げます。ここで得た経験を、今後の勉学と将来の地域医療での実践に生かしてまいります。

参考文献

就業規則序文

[https://akari-kodomo.com/pdf/labor\\_regulations.pdf](https://akari-kodomo.com/pdf/labor_regulations.pdf)

(最終閲覧日 2025/8/8)